

<News Release>

報道関係各位

2013年1月30日

(公社)日本アロマ環境協会「アロマ市場に関する調査レポート」

広がるアロマ市場、2011年の市場規模は2,654億円 ～「アロマ」を付加価値とした製品が市場拡大に寄与～

公益社団法人 日本アロマ環境協会(略称:AEA J、東京都中央区)は、2012年7月～9月にアロマ市場の構造と市場規模に関する調査を実施しました。

近年、生活者の香りやアロマへの関心が高まり、アロマセラピー関連の製品・サービスに加え、精油を配合して「アロマ」を謳った化粧品・柔軟剤などの日用品の需要が拡大し、アロマ市場ともいうべき大きな市場が形成されています。一方、これまでその実態把握につながる本格的な調査の事例はなく、情報提供へのニーズが高まっていました。

AEA Jは、公益的観点から、アロマ市場の構造とその規模を把握するとともに、今後の課題や展望を明らかにすることによって、アロマ関連産業の健全な発展に寄与することを目的に、本調査を実施。その結果、2011年のアロマ市場規模は2,654億円で、香りを楽しむライフスタイルが着実に広がっていることが明らかになりました。

AEA Jは、有意なデータの蓄積を目指して、今後も定期的にアロマ市場調査を実施していく予定です。

●調査結果(抜粋)

2011年のアロマ市場規模は2,654億円に

2011年のアロマ市場規模は**2,654億円**で、そのうち、アロマセラピー製品・サービス等による市場規模は637億円、精油を配合した製品等による市場規模は2,017億円と推計されました。

付加価値としての「アロマ」が浸透、市場を牽引

アロマセラピーへの興味・関心、ナチュラル志向の高まり、「アロマ」という言葉の良いイメージなどを背景に、大手化粧品メーカーやトイレットリーメーカーが、「アロマ」を付加価値とした製品を多数投入したことにより、市場規模が大きく膨らんでいます。特に、**アロマ市場の37%を占めるアロマ化粧品***の開発・販売は、アロマ関連企業にとって、成長を牽引する大きな要因になるとみられています。 *天然の精油を配合した自然派化粧品

外延が広がり、さらなる市場活性化に期待

アロマセラピー業界を超えて、化粧品業界やトイレットリー業界などの既存の大市場へと外延が広がるアロマ市場は、生活者の多様化するニーズや志向の変化に対応した付加価値の高い製品・サービスの提供や、様々な生活シーンでのアロマセラピーの活用方法の提案などの取組みを進めることによって、今後も市場の活性化と成長が期待できると考えられます。

※本リリースに含まれる調査結果をご掲載の際は、下記問い合わせ先にご連絡のうえ、必ず「(公社)日本アロマ環境協会(AEA J)調べ」と明記ください。

<調査の詳細・本件に関する報道関係からのお問い合わせ先>

公益社団法人 日本アロマ環境協会 広報担当

Tel: 03-3548-3401(平日9:00～17:00)

添付資料：調査結果

<アロマ市場の定義と範囲>

本調査では、アロマ市場を、「アロマセラピー市場と精油配合製品等市場で構成される市場」と定義し、対象範囲を定めた。

- ① 【アロマセラピー市場】：生活者が天然の精油を利用してアロマセラピーを楽しむ、あるいはアロマセラピーを学ぶことなどによって創造される市場
- ② 【精油配合製品等市場】：天然の精油を配合した化粧品、入浴剤、柔軟剤、消臭剤などの日用品、アロマも利用できる機能が付加された製品などによって創造される市場

※「アロマ市場」には、「アロマ」と謳っていても天然の精油が含まれていない製品やサービスは含まない。

1. アロマ市場規模の内訳 ～市場規模は2,654億円に～

2011年のアロマ市場全体の市場規模は、2,654億円(事業者小売売上高ベース)と推計された。構成内訳は以下のとおり。

アロマ市場 2,654億円					
アロマセラピー- 製品 市場	アロマセラピー- 教育・資格 市場	アロマセラピー- サービス 市場	アロマ 化粧品 市場	アロマ 入浴剤 市場	アロマ柔軟剤・ 消臭剤・ 室内芳香剤市場
249億円	165億円	223億円	990億円	160億円	753億円
アロマセラピー市場			精油配合製品等市場		

2. 個別アロマ市場の動向 ～付加価値としての「アロマ」が浸透、市場を牽引～

1) アロマセラピー市場

アロマセラピー製品市場

[対象] 精油、基材、芳香器具、アロマ活用グッズ・クラフト

- アロマセラピー製品市場のうち、精油が5割強(131億円)を占めている。
- 精油市場は、アロマセラピーの普及拡大とともに成長し、2008年頃からのミスト式ディフューザーの普及によって大きく伸張。ディフューザーの需要が一巡したここ数年は、安定的に推移しているとみられる。
- 芳香器具市場はディフューザー主導で伸張してきたが、需要も一巡し、ここ数年は安定的に推移しているものとみられる。

アロマセラピー教育・資格市場

[対象] 資格認定団体の事業、アロマスクール、通信教育、アロマ関連書籍・DVD

- アロマセラピー教育・資格市場のうち、アロマスクールが約7割(112億円)を占めている。
- 各団体が認定する資格取得者や認定スクール数などは順調に増加を続けていることから、アロマセラピー教育・資格市場は拡大傾向にあるものとみられる。
- 一方で、スクール数の増加により、受講生の獲得を巡って業界内の競争激化傾向がみられる。

アロマセラピーサービス市場

[対象] アロマトリートメントサービス、アロマ空間サービス、アロマセラピスト派遣サービスなど

- アロマセラピーサービス市場のうち、アロマトリートメントサービスが9割強(207億円)を占めている。
- アロマトリートメントサービスは、近年、ホテル、温浴施設、スポーツ・フィットネス施設、ヘアサロン、介護・福祉施設などでの導入が増えており、アロマトリートメントの提供場面はますます広がりをみせている。
- まだ市場規模は小さいが、ホテルや空港、オフィス、医療施設等でのアロマ空間演出ビジネスなど、新しい市場が生まれている。

2) 精油配合製品等市場

アロマ化粧品市場

[対象] 天然の精油を配合し、化学合成成分はできるだけ排除している自然派化粧品(オーガニック化粧品を含む)のうち、スキンケア化粧品、ヘアケア化粧品、メイクアップ化粧品、ボディケア化粧品

- オーガニック化粧品*が約2割を占めている。

*自然派化粧品のうち、原料としてオーガニックで栽培された植物を中心に採用し、化学合成成分はできるだけ排除しているもの

- 近年の健康ブームやナチュラル志向、安全志向の高まりを背景に、アロマ化粧品市場の規模は990億円と大きく膨らんでおり、アロマ市場全体に占める比率も37%と最も大きい。

オーガニック化粧品以外の自然派化粧品メーカーは、規模の大きな企業が多く、直営店やFC店、百貨店への出店がメイン。一方、オーガニック化粧品メーカーは、ブランドの規模が比較的小さく、海外ブランドでは代理店経由の参入が多いため、アロマ専門店やバラエティストア、アパレル系セレクトショップや自然食品店、百貨店などで販売されている。

- アロマ関連企業にとって、今後、アロマ化粧品の開発や販売が成長を牽引する一つの要因になるとみられている。

アロマ入浴剤市場

[対象] 天然の精油が配合されている入浴剤

- 入浴のリラックス効果に加え、さらにその作用を高めるものとしてアロマに着目した製品展開が行われている。
- 参入事業者は、大手トイレタリーメーカーと自然派化粧品メーカーが中心である。
- トイレタリーメーカーは、卸企業を経由し、総合スーパー、スーパーマーケット、ホームセンター、コンビニエンスストア、ドラッグストアなどの多様な販路で製品展開し、自然派化粧品メーカーは、直営店での直販とネット通販が中心である。

アロマ柔軟剤・消臭剤・室内芳香剤市場

[対象] 天然の精油が配合されている柔軟剤・消臭剤・室内芳香剤

- アロマ柔軟剤の市場規模は510億円で、アロマ柔軟剤・消臭剤・室内芳香剤市場の約7割弱を占める。大手トイレタリーメーカーが、やわらかさ以外の付加機能として「香り」を訴求する製品を相次いで投入したことにより市場の拡大がみられる。
- アロマ消臭剤・室内芳香剤の市場規模は243億円。お手軽アロマ製品として市場が拡大している。アロマをより身近なものとして感じられる製品として、今後ますます期待される市場である。

アロマ加湿器・空気清浄機等市場

[対象] アロマ専用ではないが、アロマも使用できる加湿器・空気清浄器・サーキュレーター

- アロマ加湿器・空気清浄機等は、製品の差別化が図られるなかで、アロマの芳香機能をつけた製品の人気拡大。アロマ空気清浄機は、ディフューザーやアロマランプとは異なり、家電量販店やホームセンターなど幅広い販路を確保できる点も、市場拡大に優位に働いている。

3. アロマ市場の今後の展望 ～外延が広がり、さらなる市場活性化に期待～

- ライフスタイル全般で香りを楽しもうとする生活者の意識は着実に広がっており、アロマセラピーに関する潜在的な需要は大きい。
- 精油配合製品等市場は、化粧品メーカーや、芳香剤、柔軟剤などのトイレットリーメーカーなどが参入し、各社ともしのぎを削っている。近年は特に参入企業の増加による企業間・ブランド間の競争の激化が進んでいる。
- 今後も様々なメーカーの市場参入が予想されることから、マルチチャネル化が進展するとともに、アロマの効用や香りのバリエーションの増加など、アロマを訴求した新たな製品の投入が繰り返され、市場の活性化が続くものと考えられる。
- 従って、今後、生活者の多様化するニーズや志向の変化に対応した付加価値の高い製品・サービスの提供や、様々な生活シーンでのアロマセラピーの活用方法の提案などの取組みを進めることによって、市場の活性化が期待できると考えられる。

<調査概要>

[調査期間]	2012年7月～9月
[調査対象]	AEA Jをはじめとするアロマ関連団体およびその会員企業 アロマ関連商材・サービスを取り扱っている事業者
[調査方法]	郵送アンケート調査(有効回答:363社)、訪問・電話ヒアリング調査(116社)

※アロマ市場は多岐にわたるため、その規模を画一的な方法で推計することは困難であることから、本調査では、アロマ市場を7市場に分類。それぞれの特性をふまえて最適な方法を検討し、事業者への郵送アンケート調査と訪問・電話ヒアリング調査に加え、売上データなどの既存資料を補完的に活用するなど、より実態に即した調査方法で実施

公益社団法人 日本アロマ環境協会(AEAJ)について

公益社団法人 日本アロマ環境協会は、自然の香りある豊かな環境(アロマ環境)の保全と創造及び、アロマセラピーの健全な普及と発展を目的とした様々な取組みを推進しています。

1996年に設立された日本アロマセラピー協会を母体として、2005年4月に環境大臣の許可を受けて設立された社団法人 日本アロマ環境協会が、2012年4月に公益社団法人に移行しました。

※本リリースに含まれる調査結果をご掲載の際は、下記問い合わせ先にご連絡のうえ、必ず「(公社)日本アロマ環境協会(AEAJ)調べ」と明記ください。

<調査の詳細・本件に関する報道関係からのお問い合わせ先>

公益社団法人 日本アロマ環境協会 広報担当
Tel: 03-3548-3401(平日9:00～17:00)